

タブレットを活用した新しい学びが広がっています

授業での活用



主体的にひらがなや漢字練習に取り組む児童



スクラッチを使ってリズム入力をする児童
(スクラッチは、自分だけのアニメーションや楽曲などができるソフト)



eライブラリを使って基礎基本と発展問題に取り組む児童たち
(eライブラリは、習熟度に応じて問題が提示される学習ソフト)



ジャムボードを活用して意見や考えを共有する生徒
(ジャムボードは、意見や考えの交流をする黒板のようなもの)

児童生徒一人ひとりに1台のタブレットが渡されて、もうすぐ1年になろうとしています。その間、各小・中学校で、タブレットを活用した授業が実践され、新しい学びが確実に広がっています。

また「学び・生活アンケート」で、ICT機器の活用状況を探ったところ、毎週またはほぼ毎日使用するようになっていくことが分かりました。

今後も、児童生徒の学力向上のために、効果的な学びが実現できるよう、学校と教育委員会で連携し取り組んでまいります。

教員研修

先生たちもタブレットの活用について勉強し合うんだね。



効果的な活用方法を紹介し合う研修会

各小・中学校は、学期に1回以上、県の指導主事や町の指導主事を招いて、勉強会を実施しました。

また、普段でも、職員室などで「こんな活用をしたら子どもたちの理解度が高まった」などが話題になり、活用方法について学び合っています。

